

瑠璃光寺の歴史と文化財

瑠璃光寺の開創は、江戸時代の地誌である『新編武蔵風土記稿』によると大同二年（807）、「寺伝」では承和二年（835）とあり、平安時代に開かれた、市内でも古い歴史のある寺の一つである。開山は慈覚大師円仁と伝えられる。

鎌倉時代頃には伽藍が整っており、現在の薬師堂辺りに本堂があったとされる。

寺伝によると徳川家康の遺骨を、久能山から日光へ改葬する際に、葬列は川越で二手に分かれ、一部は忍・館林方面に、天海僧正率いる本隊は川越から深谷を下り、この門で暫時休憩した後、世良田長楽寺へ向かった。その由緒により御朱印十石を賜ったとされる。そうしたことから仁王門に葵紋が施されたと考えられる。

瑠璃光寺にある深谷市指定文化財

- ・仁王門　・薬師堂　・定門　・佐文山筆深谷山扁額　・板石塔婆
- ・絹本着色明画　・勾玉　・古瓦

仁王門は、享保年間（1716～36）に建立された門で葵の紋が施されている。当初は茅葺で作られたようで、明治二九年（1896）の修理で瓦葺に改修された。この仁王門は、靈験あらたかで子供が仁王像の股をくぐれば麻疹（はしか）が軽減されるといわれている。

薬師堂は、室町時代のものとされ、秘仏の薬師如来などが安置されている。縁起ではこの仏さまが寅ヶ淵より出現したということから「寅薬師」として信仰を集め、戦国時代には深谷城の深谷上杉氏より鬼門除けとして信仰された。

定門は、天正一七年（1589）の建立と伝わる小ぶりの門である。

佐文山筆深谷山扁額は、仁王門に掲額。佐文山は佐々木文山の略称で江戸時代の書家である。扁額に多くの作品を残す。

板石塔婆は、境内にあり、建治二年（1276）銘を持つ。基部を遺し破片となっているが、復元高約 4.6m の大きなものである。

ほかに絹本着色明画、勾玉、古瓦の指定文化財が所在する。



板石塔婆



薬師堂



定門



佐文山筆深谷山扁額

深谷山瑠璃光寺仁王門見学会

2025.09.06

○構造・形式・寸法等――桁行(間口)3.83間(6,969mm)、梁間(奥行)2.33間(4,242mm)

切妻造、棧瓦葺き、一軒吹寄垂木、三間一戸八脚門、仁王門1棟

○床面積(側柱真々内側面積)――29.56㎡(8.94坪)

○瑠璃光寺仁王門の概要と歴史

- ・享保年間(1716～1736)の建立
- ・明治廿九年(1896)茅葺屋根から瓦葺きに改変 小屋裏棟木に墨書有り
- ・昭和六十一年(1986)瓦 葺替え、壁修繕、ペンキ塗装等
- ・中央通路両側筋の柱6本 丸柱、東西両端筋の柱6本 八角柱
- ・正面山号額「深谷山」――左文山筆(佐々木文山)市有形文化財に指定

時代判定の手掛かりにもなる各部材 例: 墓股(かえるまた)



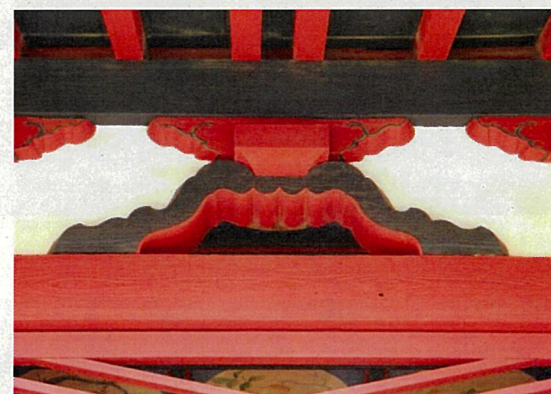
妻壁の虹梁・墓股



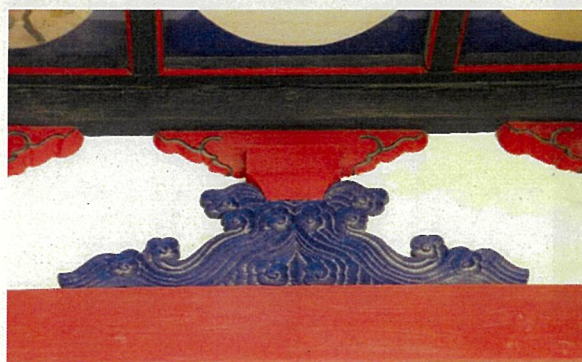
中央通路正面の笈型(おいがた)



中央通路両脇の墓股(波彫刻)



正面東西両側の墓股

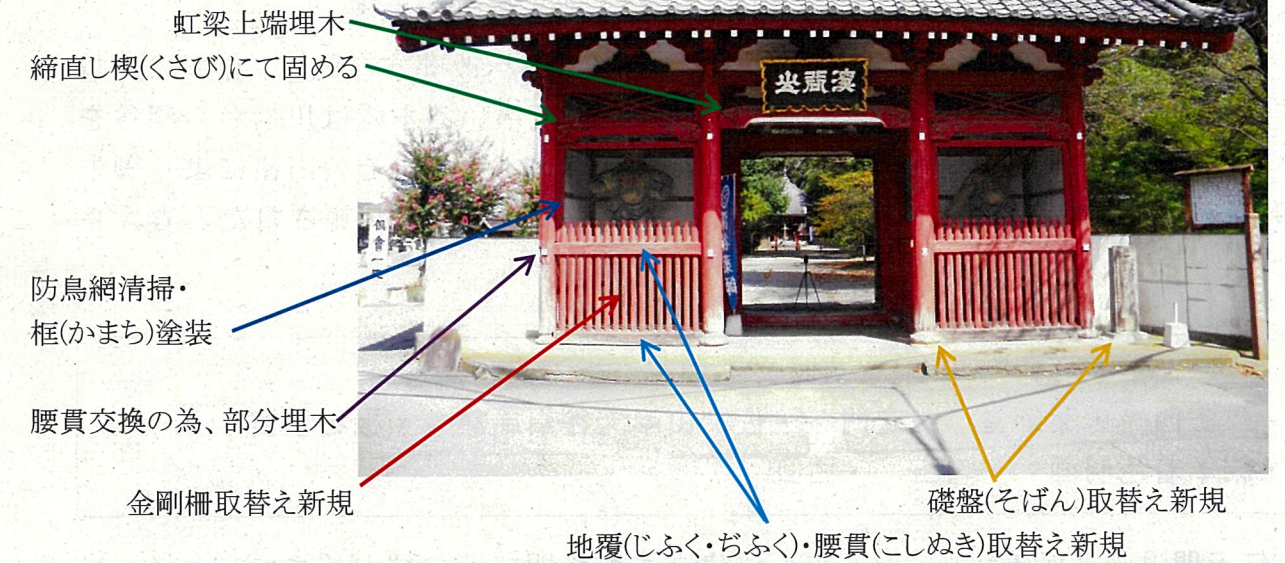


境内側東西両側の墓股(雲彫刻)



塩船観音寺仁王門(青梅市)室町時代後期(1467～1572)

○工事概要



建具調整、錠取替え新規



全体: 塗装新規、埃落とし美装工事

※工事概要抜粋により、重複内容については記入していません